

令和6年度立川市長定例記者会見記録

日時・場所	令和6年11月25日(月)午後3時30分～4時45分	201 会議室
出席者	市側 酒井市長・近藤副市長・小林副市長	
	クラブ側 読売新聞・朝日新聞・東京新聞・日本経済新聞・共同通信社・時事通信社・都政新報・Jcom・いいね立川 合計 9 社 その他:NPO 法人育て上げネット 工藤理事長 立川アスレティック FC 皆本選手兼代表理事	
司会進行	広報課長 五箇野	

【酒井市長】

皆さんこんにちは。皆様方には平素立川市政に関する情報を市民、また市内外の皆様方にお伝えをいただいていることを心から感謝申し上げます。

まず冒頭令和6年第4回市議会定例会を11月29日に招集をいたしました。今定例会では当初提出した議案が21件となっております。本日はこの議案の他に9点のお知らせを予定いたしておりますのでよろしくお願いいたします。

まず冒頭、皆様方にお配りをしている資料以外の点でお伝えをさせていただきたいと思えます。最近各市の首長さんも記者会見の場でお伝えをしておりますけれども、103万円の壁の問題でございます。

現在立川市においても来年度の予算案についての編成作業を進めておりますけれども、衆議院選挙後、この103万円の壁が政府あるいは与野党の中で議論をされております。この103万円の壁が撤廃をされ、国民民主党がご主張をされております178万円に引き上げをされた場合、基礎控除が上がってしまった場合、本市においては、いくら影響があるのかということ、それぞれの首長さんが大変危惧をしている懸念を持っている点であろうと思っております。

当然私どもの市においてもこの引き上げが行われたときには、少なからず影響がございます。この影響額についてこの178万円に引き上げられて、それが住民税にも連動した場合という前提でございますけれども、約43億円影響をすると試算いたしております。この43億円という金額ですけれども、本市においては令和5年度の決算における市税収入が約415億円でございますので、市税収入の約10%という金額に当たります。

これを立川市がこの間、行ってきた事業等に当てはめた場合においては、今子どもたちに学校給食を作っている学校給食の東共同調理場の整備費が用地取得費を含めて、49億円で

ございました。

また来年の5月連休明けからスタートいたします、子育て健康複合施設の整備についてはこれも用地取得費を含めて46億円という金額がかかっておりますので、立川市における影響額がいかにか大きいかということをご理解をいただけるものと考えております。

この点については当然納税者の側からすれば、過去この基礎控除額といったものは、何十年も変わっていないという話でありますので、国民にとっては良い話であろうと思っております。その一方で地方の税財源という形からすると、その影響額は計り知れない。

国であれば国債を発行して、日銀が買ってくれれば、ある意味通貨発行権という中でインフレに注意しながらという形で、吸収されるかもしれませんが、これが地方公共団体になればそれは自前で経費の節減、既存の例えば上乗せ横出しをしている事業の根本的な見直しも図らなくてはなりません。また新規事業等も当然行えなくなってくるという、そういった懸念もある課題であろうと思っております。

国の議論等を聞いていると、国は不用額、歳出の段階で余りがあるんだから、その中で吸収されるのではないかというお話も出ております。当市においては私が市長に就任をしたときに、当然決算の段階で不用額が出ますがその不用額の範囲内で、私も市長選挙のときの公約を立てたときに、例えば学校給食の問題であるとか、あるいは補聴器の補助の問題など、また、国民健康保険の未就学児への支援の問題など不用額というものをしっかりと精査をして、予算計上をしっかりと行うことによって財源を捻出しようという、そういった思考回路で令和6年度の予算というものは、編成をしまりました。

各自治体によって差異はあろうかと思っておりますけれども、地方自治体の中では既にそういった不用額の削減に取り組んでいるところもあるということから言えば、この主張というのは国においては当たるのかもしれませんが、地方においてはちょっと違うのかなという思いがございます。

またその一方で106万円の社会保障の壁の話です。これは厚労省の方がしておりますけれども、少し姑息かなって思いがあります。私から皆さんへ釈迦に説法かもしれませんが、この103万円の壁を初めとした税制の基礎控除の壁というのは国民にとって利益、実質的な使えるお金が増える話ではありますが、この106万円の壁というのは130万円の壁と言われている社会保障費のうち、小規模な事業者にとってはそれを例外として加入義務をなくすというそういった免除するという壁でありますので、この議論をしていると何か106万円の壁も国民にとって利益があるのかなというふうに誤認をするような問題を一緒に指摘、課題として検討しているのは少し違うのかなと思っております。

いずれにしてもこの点については、地方交付税云々という話もありますが、当市においては仮に地方交付税という形で財源措置をされたとしても不交付団体ですので、ふるさと納税への補填がないのと同様に何ら補填もされません。今政府の中で一部議論になっております通り、この地方交付税の基礎控除の43万円というのが今基礎控除になっておりますが、

これは国税とは分割をして対象除外にさせていただきたいということを冒頭お話をさせていただきたいと存じます。

その上で今そういった懸念がある中で、立川市の来年度の予算については、なかなか経常的にかかってくる。そういった予算の編成についてはどうしてもこの年末の税調の話あるいは、年始にかけての国の予算編成というものを見極めながらではないと、実際に影響するのは令和 8 年度からになると想定をされますけれども、ちょっと躊躇せざるを得ない状況であります。そういった状況も見据えながら立川市として市民の皆様方の暮らしが少しでも利便性を増すような取り組みをしていきたいと考えております。

大変前置きが長くなりましたけれども、各市の市長さんもそういったお話をされておりますので、当市の影響額についてまず冒頭お話をさせていただきました。それでは予定をいたしておりました記者会見にて皆様にお伝えをしたい項目について順次お話をさせていただきたいと存じます。

一点目については資料 1 をご覧いただければと存じます。今年は元日に能登半島での大変大きな地震が発生をしたという、まさに衝撃的な年の始まりでございました。その後も能登半島においては水害等も発生するなど、今なお大変な生活環境におかれている方々が多くいらっしゃいます。

この能登半島への支援という形では、この間も既に皆様にお伝えをしている通り、立川市の職員を派遣する。また、遠隔地からでも支援が行える一つの方策として、電子図書館の開放も期間延長して令和 7 年の 3 月 31 日まで現在実施をいたしております。この能登半島の地震あるいは水害等の復興の支援に向けてのチャリティ・コンサートをこの度開催をすることになりました。場所はこの立川市役所本庁舎（シティホール）の 1 階でございます。

日時は令和 6 年 12 月 9 日 月曜日、夕方 5 時 20 分業務が終了した後から 6 時までを予定いたしております。出演者は【アンサンブル ブラヴォー】の皆さんで発起人の市川和彦さんは立川市在住で国立音楽大学在学中に新日本フィルハーモニー交響楽団に入団をされて現在は副主席トランペット奏者として活躍中の方でございます。

当然立川市役所 1 階で行いますので入場は無料でございますが、復興支援という形のチャリティでございますので、募金箱を設置させていただきます。一人でも多くの皆様方に聴きにきていただき、そして能登半島の震災あるいは水害等で苦しんでいる方々への御支援に繋げていただければと思っております。

なぜこういった取り組みをするかということなんですけれども、私も偶然この市川さんと知り合うきっかけがございまして、以前にもご自身たちの仲間やあるいはそれ以外のグループで一度チャリティ・コンサートをやったそうなんです。2 回目をやりたいなということで場所を探していたんだけどなかなか人の集まる場所が見つからないということでお話をいただきました。以前コロナ禍の前には、この立川の市役所の 1 階でも水曜日だっ

たと思うんですけどコンサートをやっていた。せっかくに震災復興のチャリティということであるならば、市民の皆さんが多く集まり、そして職員も聴くことができるそういった場所で、しかも無料で利用できるということでこの立川の市役所という場所で、このコンサート復活をするということも、チャリティというそういった主目的がありますけれども、市民にとっても、市の職員にとっても心の癒しに繋がるだろうということでこの度この市役所の 1 階で開催をすることになりました。ぜひとも皆様方には既に広報でも周知をさせていただいておりますけれども、多くの市民の方にお知らせをいただき少しでも多くの善意が能登半島へと寄せられるようにお力添えをいただきたいと思っております。

次に 2 点目についてでございます。

これは資料 2 をご覧いただければと存じます。学校給食代替弁当補助金というタイトルでございます。

これは食物アレルギーやその他の疾患を有すること、また宗教上の配慮が必要であることなどの理由により、学校給食の代わりに弁当を持参している児童生徒は令和 6 年度から実施をいたしました学校給食の無償化による負担軽減の恩恵が受けられておりませんでした。そういった状況の中で、今回そうしたご家庭を対象にこの学校給食代替弁当補助制度を創設していきたいと考えております。

やはり市民の皆さんに不公平感がないようにこの学校給食の無償化という私の政策をしっかりと実現をしていきたいという、そういった思いから今回この制度を創設して、令和 6 年の 4 月他のお子さんと同じように 4 月に遡って補助金を交付するという形にしたいと考えております。対象は市立の小中学校に在籍をしている児童生徒で、交付額は令和 6 年 4 月以降に学校給食の代わりに家庭から持参した弁当の回数に 1 食単価を乗じた金額になります。このことによって私の公約に基づき実施をしている学校給食の無償化において、全ての子供たちが不公平感の解消に繋がり、親御さんの子育ての支援に繋げていきたいというふうに考えております。

次に 3 点目についてでございます。

これは資料 3 をご覧いただければと存じます。

長期欠席児童生徒への給食提供の試行実施の拡大についてでございます。この案件につきましては、前回 8 月の記者会見でお知らせをしたところでございますけれども、これは小学生に限って、また週 1 回という形で試行実施をしてみようという職員からの提案がございまして、取り組みを進めさせていただきましたけれども、ちょっと不発に終わっております。今のところ問い合わせはあるんですけども、なかなかの提供の実現には至っていません。やはりちょっと制度を少し利用者が利用しやすい形に変えていこうということで小学

生のみならず、中学生、児童生徒に拡大して、週1回木曜日のみでさらに1週間前に申し込みをしてということにしておりましたけれども、これを東共同調理場で給食提供のある全日の日に拡大して、事前申し込み手続きも不要といたします。あわせて付き添いの方（保護者の方）へ食材費のご負担をお願いしていましたが、試行期間中は無料という形に変えていきたいと思っております。この見直しを令和7年1月16日から実施をすることで1人でも多くの長期欠席をしている児童生徒にとって家の外に出るきっかけとなり、家族以外の方と交流する機会を作って孤立化を防いでいきたいと思っております。

この学校給食の無償化につきましては、いろんな広聴でお問い合わせをいただくのですが、小学生だと思っておりますけれども、お手紙をいただくことがございました。「市長さんありがとうございます」ということで、子供から給食無償化してくれてありがとうという声をいただいて本当にやって良かったなと思えます。

また今回中学生まで広げようという根底には、市内の中学校なんですけれども、校長先生に聞いたところ今までは給食費、当然払ってないと食べられない。でも無償化なので給食だけでも食べにおいでよという形で校長先生から不登校の子どもに呼びかけをしたところ、その学校では二、三人の子どもが給食だけでも食べに来るようになったというお話を聞きました。

一つの目的は保護者の皆さんの子育ての負担を軽減するということでありましたけれども、副次的な効果として長期欠席をしているそういった児童や生徒の皆さんが学校に来ることが全てとは言いません。

だけれどもそのきっかけの一つになったということは大変嬉しいことでもありますし、そういった輪を広げていくために、今回8月に既に皆様方にご報告をしている案件でございますけれども、使い勝手を良くして、対象者を広げていきたいという形でバージョンアップをしていきたいと考えております。このあいだも申し上げた通り、現地の取材というのはセンシティブなお子さんたちも多いので、ご配慮いただきたいというふうに思います。周知方については学校より当該ご家庭にはご連絡をするという形で広めていただいておりますけれども、周知方ご協力をいただければというふうに思っております。

次に4点目、資料4をご覧になっていただきたいと思えます。

これも子どもたちに関わる問題でございます。小・中学校への自閉症・情緒障害特別支援学級の設置についてでございます。現在本市では自閉症・情緒障害特別支援学級を小学校2校に設置をいたしておりますが、その一方で中学校には設置できていない状況が続いてまいりました。

この自閉症・情緒障害特別支援学級への入級希望者は増え続けている状況にありますが、既存校へこれ以上の増設というのは難しい状況になっております。また合わせて、中学校に

国人介護人材受入支援事業の制度周知を行い補助の受付を開始してまいりたいと考えております。なお、東京都と市の補助金の併給が可能となるのは、都内で初めてとなるということ、付言をさせていただければと存じます。

次 7 点目でございますこれについては資料ございません。私の公約の一つでございました補聴器の購入費助成事業についてでございます。

難聴等により、聞こえに課題のある方への補聴器の購入費助成は、私の公約として今年の7月より実施をしております。多くの市民の方に待ち望まれていたようでございまして既に多くの申請をいただいております。当初の見込みを大きく超える受付状況であり、この状況に対応するため今議会において助成費を増額する補正予算案を提出する予定でございます。

当初予算では 130 人分を想定いたしておりましたけれども、現時点で医師の意見書の提出も受け、承認決定まで至っている方が 10 月末の時点で 135 人位いらっしゃるという状況です。今回補正予算を組んで 40 人分を追加して対応してまいりたいと考えております。子育て支援の問題だけでなく、高齢者の聞こえの問題からフレイルの予防にも繋げていける施策の拡充に取り組んでまいりたいと考えております。

次に 8 点目でございますが資料 7 をご覧いただければと存じます。市制 50 周年憩いの場への喫煙スペースの設置についてでございます。

この場所皆さん方もご案内のことであろうと思っておりますけれども、公園の利用者や近隣を通行する方から喫煙に関する苦情を度々いただいております。市の広聴制度でもあの場所は利便性が高い場所であるわけですがけれども、その一方で日中多くの方が喫煙をしている。その横で時には飲酒をしている方もいらっしゃって、また子どもたちも遊んでいるということで、この喫煙何とかならないのかといったお話をいただいていたところでございます。

こうした状況に対応するために、喫煙所設置をすることとし本日 11 月 25 日より利用ができるようになりました。これに伴い、憩いの場は喫煙所を除いて禁煙とさせていただきます。この喫煙所の設置により、喫煙者も非喫煙者もともに使いやすい憩いの場となることを期待いたしております。

前半の最後にイベントの告知をさせていただきたいと存じます。お手元にお配りをいたしましたチラシをご覧いただければと存じます。

毎年この時期に恒例となりました立川シアタープロジェクトによる子どもと大人が一緒に楽しむ舞台シリーズも 8 作目となりました。今年は立川市を拠点に活動する maymay titi/KITORI による絵本、「ぼくはおくりもの」を原作とする舞台となっております。

公演は 12 月 20 日金曜日から 22 日日曜日までの 3 日間で 5 公演を行う予定でございます。

す。またそれに先駆けて、ワークショップも予定をしておりますので楽しみにしていただければと思っております。

ここで一旦説明を終了いたしまして、今までの内容についてご質問等がございましたらお伺いをしたいと思います。

後ほどふるさと納税に関してのお話を質疑の後に行わせていただきますので、よろしく願いいたします。

一旦以上でございます。

～質疑応答なし～

ここからお知らせをしたいことは、ふるさと納税を活用したガバメントクラウドファンディングについてでございます。この件につきましては本日ゲストをお呼びしておりますのでご紹介をさせていただきたいと存じます。

認定 NPO 法人育て上げネットの工藤理事長と立川市をホームタウンとして活動する立川アスレティック FC の皆本選手兼代表理事を、そして立川アスレティック FC のマスコットキャラクターの「アスレくん」でございます。

資料 8 及びお配りをしているリーフレットをご覧いただきたいと存じます。

昨年度、孤独孤立から子どもを守りたい、家でも学校でもない第 3 の居場所を立川市につくる。このことを目的に育て上げネットさんが運用している夜のユースセンター事業を支援するため、目標額を 300 万円として、ガバメントクラウドファンディングを実施いたしました。結果として多くの方からご賛同を得ることができ、目標額を超える寄附 364 万 3500 円を集めることができました。

昨年この時期、年末になるとふるさと納税は大変活況を呈して参りますが、立川市のふるさと納税においては、カニもお肉もございませんとお伝えしました。立川市の社会問題を解決したいというその心意気にご賛同くださいということをちょうど 1 年前皆様方にご案内を申し上げ、そしていくつかの記者の皆様方には育て上げネットさんにお越しをいただき、その実情というものを記事にさせていただいたこと本当にありがとうございました。

今年度は新たに立川アスレティック FC の協力もいただき、夜のユースセンター事業をより発展をさせていきたいと考えております。

そのために目標額も昨年の 2 倍を超える 700 万円として 10 月 7 日より寄附の受け入れを開始いたしております。

既に 500 万円を超える寄附が寄せられているということは私の毎週末アップしております YouTube 動画でもお知らせをさせていただいている次第でございます。

ここでゲストの工藤理事長と皆本選手兼代表理事から第 3 の居場所作りの必要性とこれ

まで、そしてこれからの取り組みについてお話をいただきたいと思っております。私も先日土曜日ふらっと自分の公務が終わった後に、何の予告もなく立ち寄らせていただきました。

そのとき偶然、皆本選手兼代表理事とご一緒になって、びっくりですねということになったんです。私もずっと行きたいと思っていてなかなかお伺いするチャンスがなくて、実際にそこに行かしていただくと、ある男性と会いました。その男性はちょっと話をするのが苦手なのかなと思いつつながらもうピアノ弾くのがとても上手なんですよ。みんなの前で懐かしいちょっとホロッとくるような、ピアノを弾いてくれたりしてくれました。12月にバンドのライブをやるということで私もお邪魔しようかなと思っております。バンドをやったり、あるいはいろんな話をしたりということで、この事業を立川市がふるさと納税という形で応援をさせていただいてよかったなと改めて実感しております。

今年また来年再来年度でずっと永続的に社会問題を解決していくという意味でこのガバメントクラウドクラウドファンディングという制度を使って、応援をしていきたい。皆さんの善意を集めたいというふうに思っておりますので、皆様方には重ねてPRをしていただければなと思っております。それでは工藤理事長と皆本選手兼代表理事からお話を頂戴したいと思っております。

よろしく申し上げます。

【育て上げネット 工藤理事長】

育て上げネットの工藤でございます。お時間いただきありがとうございます。昨年も実施させていただきました、返礼品のないふるさと納税によって夜の居場所をつくるということに対し、今年も実施させていただくことができました。1年間のご報告と皆様へのお願い活動の状況ということをお話させていただきたいと思っております。

今回は立川アスレティックFCの皆さんを加えてやっていきますけれども、後ほど何をさせていただくのかということをご説明させていただきます。

お手元の資料にありますように、夜のユースセンターまさに「ト一横」「グリ下」「繁華街」などですね。今も連日メディアの方でも取り上げられていますけれども、私達の立川市の高松町の事務所において毎週土曜日6時から9時まで、若い人たちを中心としたですね居場所を展開しております。

まず一つは安心して安全を保障するというところで、そういう空間の提供、また公共施設が閉所しやすい時間帯、土曜日の夜というところに設置しています。

全国の夜の居場所のようなものを作っている団体で共同調査をしまして、なぜ利用するのかというときの二つの理由がわかりました。一つは無料であること。もう一つはご飯が食べられることがあります。

このご飯に関しましても、子ども食堂のように自分たちで手作りするっていうこともすごく大事だと思うんですけれども、やはり地域経済と自分たちで食料を無料で出すってことは、利益相反を起こすことがありますので、私達としては立川市内で食事を出している

ような中華料理屋さん等をお願いをしまして、毎月、毎週ですね、食事を提供してくださいということで地域の個店の力も借りて行っております。その他のeスポーツができるとか、先ほど市長からありました、音楽活動もできるような形で地域の方々にも理解をしていただいています。

また1日だけご飯食べてお腹いっぱいになっても持ちませんので、特に夏休みや冬休み給食がなくなるような期間を中心に、食料食材を持って帰っていただくということ。また専門性を有するあの職員と地域のボランティアの方にもお願いをしまして、彼らを食べ物にしない大人たちがちゃんといるんだっていうことを、育て上げネットとして配置をしております。

毎週土曜日ですので今週もまたやっております。職員とは夏休みであろうが、年末であろうが年始だろうが、土曜日は絶対開けるんだということで1年間、寄附者の方の原資を活用させていただいて活動させていただいています。

現在、子ども家庭庁や中央省庁あるいは東京都職員の方なんか毎週のように視察をいただいております。必ず聞かれるのは「誰が来てるんですか」という質問です。一概には言えませんが、おおむねこういう方々が来ておりますと伝えていきます。

親や家族に頼れない友人知人がいない、食べるものに困っている。死にたいって言葉はあまり聞きませんが、時折消えてしまいたいなどと発する子です。そういう声も出ています。特に最近ですね、生活や仕事の悩みの中で闇バイトのリスクを途中で止めるようなものがあります。実際闇バイトに加担してしまえば警察のターゲットになりますが、十代ですので、このバイトどう思いますと見せられたスマホの画面があからさまであると。なので、これは違うんじゃないかと。もし就職やアルバイトするのであれば、我々は元々就労支援の団体ですのでそういうところを紹介しますというふうに言うてはいますけれども、かなりカジュアルな感じでインスタグラムやXとかですね、アルバイトを探しているような子が見せてくれた画面を見て、本当にそうかどうかわからないんですけども、これやめときましようと一緒に探しましようっていうこともやっております。

現実的に闇バイトに加担したという話はまだ聞いておりませんが、やはりリスクのある子どもたちっていうものがここにいるってことが現場では見ております。

2024年度活動させていただきまして、今、前年は300万円の目標金額を達成させていただきましたが、今回ですね700万円になっております。

一つはですね利用者数が150%増しになっております。平均で毎回三、四十人の若者たちが来ており、物価高騰のあおりを受けてですね、1年間でおおむね手数料含めて500万円あれば大丈夫だということと、アスレティックFCさんと一緒にさせていただくっていうものを合わせて、今回700万円を目標にしております。

新規の利用者に関しましては、学校の先生、また公共や民間の施設の職員さんが、夜の時間帯や食事っていうものを、施設もしくは学校では提供できないので、この生徒さんを、この子をとということで一緒に連れてきてくださいます。

そこから利用者が増えていることと、社会的養護下にある子どもたち、例えば児童養護施設を出て1人ぼっちであったりとか、鑑別所や少年院から出てきてやはり1人ぼっちであるような子も、先生方や関係者を通じて紹介をされてきて、利用人数が増えているということが挙げられます。

夜間帯の時間で無料だということと、少なくとも安全安心だという空間ということなので多くの方々から、ここでまず出会って信頼関係を作り、その上で必要な政策や制度に繋がっていくということを出会いの場としてやっています。

別の調査をしたときに、夜の時間帯にくる子で過去、制度や政策や利用した事ありますかって聞いたところ、半数以上が知らないと使ったこともないと使う気もないっていうような回答もありましたので、やはり目的をあえてなくした居場所っていうところから、信頼関係を作りまして、そこから必要な支援に繋がっていくっていう意味ではすごくいい場所であることだと感じています。

実際、中央省庁の方が来られているとき、どうしたらここにいる子たちって来てくれるんですかっていう、全然来ないんですと言われました。やはりアウトリーチが大切で、彼らとの出会ってっていうものに関しては、夜間帯の居場所というのは一つ意味があるのだろう、全国モデルに成りうるんだらうと思っております。

音楽の活動や写真スポットの写真もありますが、やはり若者たちとともに作っていくことが大事です。彼らからですね、ちょっといいお肉食べてみたいという声があったので、別のクラウドファンディングを立てまして、寄附者の方が寄附と実際焼いて提供するようなどころに何十人も若者たちが来てのバーベキューをタチヒビーチで開催となりました。毎回ですね立川アスレティックのホームゲームの際には泉体育館や、立飛アリーナで事前の線引いたりとかですね物を片付けたり仕事があるんですけど毎回やらせていただいて、仕事の経験をしてみたいって若者たちを受け入れていただいております。

その他、部活ができなくなった学校を中退してしまったっていう子どもたちの中で、本気でサッカーをまたやってみたいという子がいましたので、サッカーチーム作りまして、ユニフォーム作りまして、立川市の地域のサッカーリーグにも参戦を本格的にしながら、一度も勝てないままいますので、2025年度は1回ぐらい勝ちたいなと思っております。ここで出会った若者たちの希望をやってみたいっていうことを大人が本気になって実現をするっていうことをやっていきたいと今後も思っております。

2024年何が違うのかっていうところを再度説明させてください。

ふるさと納税制度で立川市もかなり流出しているところありますが、やはり返礼品なしだからこそ寄附をしたいって方も世の中にはたくさんいらっしゃるし、ふるさと納税という制度そのものに疑義がある方にとって、やっぱりこの返礼品なしの使い方だったらやってもいいって方も去年もいらっしゃいましたので、やはり返礼品なしのモデルで広げていきたいのが一つ。

また先ほど申し上げた闇バイトに近いものがかかり出てきていますのでそこで未然に、

啓発活動以外に、直接横に座ってスマホの画面見て、それ危ないんじゃないかっていうことを言ってあげられる存在になっていきたいと思っている。また、ふるさと納税は立川市はです、私達の団体のためのものではありませんので、地域の課題は地域で解決していくと、今回立川アスレティックの皆さんに参画をしていただきましたが、今後はステークホルダーを増やしながら地域の力を若者たちとともに、若者たちが抱える課題解決に取り組んでいきたいと思っています。

居場所は何もありませんので、いろんな課題を解決することはできません。特に立川市に限らず体験格差という問題が出てきています。習い事ができない、いろんなことやりたいけれどもお金がかかるというところで、今回立川アスレさんのお力を借りまして、特にこの体験や経験の部分っていうものを一緒になって拡充していかせてくださいということをお願いさせていただきました。立川アスレの皆本さんの方からですね少しお話をいただきます。居場所や生活、人生は僕らが守りますけれども、それ以上にいい経験や素晴らしい体験というものを、立川の力を使ってですね、立川の子どもたち若者たちにやっていきたいと考えております。

【立川アスレティック FC 皆本代表】

皆さんこんにちは。立川アスレティック FC の代表している皆本と申します。よろしくお願ひします。こちらにプロフィールは出てるので、後で見えていただければと思っております。

私達なんですけど、まずこういった活動に参画させていただいたっていうのは、立川に正式に移転してきて3年目を迎えるところになります。プロスポーツチームというのは街に存在している意味を私達はクラブを立ち上げたときからずっと考えております。

その中で、ただ試合をして、ただ勝てばいいっていうのはもうプロスポーツチームの存在としてはあまり意味がないものだと私達ずっと考えております。その中で何ができるかっていうとやっぱりスポーツの力を使って、地域やまちの課題を解決していく。私だけで解決できるわけではないんですけど解決することに力を貸すことができるんじゃないかとずっと考えながら活動をしてまいりました。その中で今回、育て上げネットさんと夜ユースセンターという切り口のところで、たまたまご縁がありまして私達もできることがあるんじゃないかということで、参画させていただきました。

今現在やらせていただいているのがもちろん試合を観戦してもらって、こういったところでの体験格差を解消していくところもあるのですが、もう一つスポーツチームとは試合するだけではないですし、見てもらうだけではなくて、一緒に試合をつくっていく。そのボランティアと一緒にやってもらうことによって、今実際にやってもらっているのは、試合の会場のテープを引いたりということをやってもらうことによって、職業体験の疑似体験ができる場を提供させていただいています。

また今回のところでは、サッカーチームを作ったりっていうところの中で私達がプロチ

ームとしてできるフットサルだったりサッカーの指導を提供したりだとか、一緒にボールを蹴ったりってところも今やらせてもらおうと思っております。そういった活動が少しでも体験格差を埋めるものになればいいなというふうに思っております。

また、先日市長が伺われた日に私達もちょうど夜のユースセンターに行かせていただきました。私達はあまり得意ではないんですけどテレビゲームと一緒にやらせていただきました。ただテレビゲームは私があまり得意ではないので、サッカーゲームにさせてもらったんですけど、伺ったときに初めはほとんどの子が誰なんだこの人たちはっていう目で見えていたんですけど、一緒にゲームやってみようっていうところから始まって、自然と試合するときには誰々とか来てみたいなふうになってたんですけど実際ゲームが始まって熱中しだすといきなり声を出したりとか、私達もゴールしたら喜んでっていうところで普段こんなに盛り上がることはないっていうようなこともあったようです。

私達が行ったからそうなったっていうわけではないんですけど、やはり普段関わらない大人だったり私達スポーツチームとして、普段とは違う関わりをすることで、新しい経験ができるんじゃないかなと改めて感じましたので、ぜひこういった形で私達が主導というわけではないんですけど、少しでも違う刺激だったり経験を提供できればいいなというふうに思っておりますのでぜひよろしくをお願いします。

【育て上げネット 工藤理事長】

ありがとうございます。3戦全敗で負けました。

あの方、プロチームの人ってゲームでも容赦なくてですね、本気で勝ちに行くっていうところが、若者たちもよくわかったなというふうに思って、ふるさと納税の返礼品なしモデルに関しては何年前から市の方ともお話ししたんですけども、今の市長の公約の中で税外収入を取っていくっていうところを含めて、昨年新しく酒井市長が誕生したことをきっかけにですね、今回取り組むことができました。

先ほど申し上げましたけれども私達の団体のためのツールではありませんのでしっかりと地域の方々と手を結んで地域の若者たちを支えていくということと同時に、何度も申し上げますが、国や自治体からの視察が本当に多くてですね、夜間帯に限りませんが、いろんな政策を作っても繋がらない人たちをどうしたらいいんだっていうところに、一つ回答としては居場所っていうのがあるんですが、やはり「夜間帯」っていうところにキーワードはあるように思っています。

夜間帯である以上ですねリスクが高い若者たちや、何度も言いますが、ちょっと危ない橋を渡りがちな子たちもいますけれども、それもまた地域の大人としてですね、横に座りながら、これは良くないんじゃないかなとかこれはいいんじゃないかということ、一緒になって、彼らの人生作っていきたいというふうに思っておりますので、ぜひ私達代弁者でもないもので、皆様方にあの取材であってなくてもですね、毎回たくさんの見学する大人の方いらっしゃいますので、ちょっと彼らの声、大人も聞いていただきたいなと思いますし、あの否

定しない大人と一緒にいるっていう経験がない子たちもたくさんいますので、1時間ぐらい喋りっぱなしになるかもしれませんけれども、階段と一緒に座ってですね、子どもたちの声を、皆さんにも聞いていただきたいと思っています。

毎週土曜日 6時から9時までやっていますので、ぜひ皆さんお越しいただければ幸いです。ありがとうございます。

【酒井市長】

ありがとうございました。

ぜひこの際ですので、工藤さんまた皆本さんにご質問等ありましたらよろしく願いをいたします。また私でも構いませんので本件についてのご質問をお受けしたいと思えます。

どうぞよろしく願いいたします。

【共同通信社 杉山記者】

場所は生活館ビルというところで、毎週土曜日に開催されているということですが、育て上げネットの職員の方とかメンバーの方は、常にそのときにいらっしゃるのでしょうか。その会場の中に。

【育て上げネット 工藤理事長】

日によりますけれども、少なくとも4名から5名男女のバランスを取りながら配置をしていますので、必ず職員がそこに常駐しております。

【共同通信社 杉山記者】

ということは、利用者任せというわけでは無いということですか。

【育て上げネット 工藤理事長】

そうですね。

【共同通信社 杉山記者】

ト一横とか悪意のある大人が入り込んで声をかけたりとか、ちょっと弊害も見られているケースがあるのですが、そういった心配はないということによろしいですか。

【育て上げネット 工藤理事長】

基本的にフリーではあるのですが、それほど突然人が来るわけではなく、先ほど申し上げた先生の紹介であったり、ハローワークの職員さんの紹介であったりということが非常に多く、友達を友達が連れてくるってことがとても多くあります。今まで事件事故みたいなものが起こったことは無いのですけれども、ただそのリスクはゼロではありませんので、多

くの職員を配置する。そのためにコストもかかってきます。なので、この部分を彼らからお金いただくことができないので、返礼品無しのふるさと納税でお願いをしたいということになっています。ご質問ありがとうございます。

【酒井市長】

私もこないだ突然通りがかりの市長ですと言って、ピンポンして、ちゃんと入口鍵かかっていました。インターホンを押して、すみません市長ですけどって言い、中に入れていただいたのですが、グループごとに職員の方がついてお話を聞いたり、あるいは自由にやっているという。

安全性という観点から言えば、それぞれの職員の方がまず入口でセキュリティはかけている。あと中に実際入ってこられちゃってと言うと、あれなんだけれども、そこはやはり人の善意とか壁を作ってしまうと誰も入ってくれなくなるので、そこは信じ合うということが必要なのかなと、通りがかりの市長としては実際に訪問して感じたところです。

【共同通信社 杉山記者】

立川アスレティック FC さんとの連携っていうのは、試合を見せてもらったりとかそういうこともお考えになってらっしゃるのですか。プレーを見せてもらうとか。

【育て上げネット 工藤理事長】

プレーを見せていただくことや職場体験、またアルバイトこれからする方にとって、実際その設営管理みたいなところを体験させていただくってことです。以前協定も結ばせていただいているので、それを一歩踏み込んで、子どもたち若者たちに直接的にプロの力を貸していただきたいことが今回に繋がっています。

【共同通信社 杉山記者】

体育館とか、プレーできるところに行ってみ学したりとか、スポーツ教室体験などっていうことも考えてらっしゃるということでしょうか。

【育て上げネット 工藤理事長】

そうですね。これから若者たちのニーズを聞きながら一緒にやらせていただきたいなと思っています。

【日本経済新聞 秦記者】

育て上げネットさんとしては、こういった夜のユースセンター事業は立川だけでおやりになっているのでしょうか。

【育て上げネット 工藤理事長】

元々2022年にコロナ禍から少し開けかけた頃に、夜寂しいという声を聞きましたので、まず自分たちで立川の中でやってみようということでモデルを立川に作りました。

その後ですね休眠預金の制度などを使いまして、全国10団体11ヶ所で、それぞれの地域のNPOさんが、夜の居場所を作ってみるっていうようなモデル事業もやっています。私達としては、この場所一つです。それ以外の箇所でもやりたい方がいらっしゃれば、やり方であったり、安全管理、事業費の立て方なんかを他の団体さんにシェアすることで、夜の居場所が日本に広がっていけばいいなと考えております。

【日本経済新聞 秦記者】

実際そういった別の団体の方が別のところ立ち上げたことはあるのでしょうか。

【育て上げネット 工藤理事長】

はい、一緒にやった団体も継続をしていますし、おそらく東京都さんも、今「きみまも」と言うト一横で居場所を作っていますが、来年度以降その拡充のお話は少し聞いています。ヒアリングに来られたりとか、どういうふうにしたら若者たちが安全に来てくれるのかみたいなことで、同じ部署の違う課の方が別々に見学に来られたりしていますので、立川のモデルを全国の制度政策に繋げて、設置箇所を増やしていきたいなと思っています。

【読売新聞 宮尾記者】

目標金額の部分でお伺いしたいのですが、年間50回開催で450万円、立川アスレティックFCとの連携で177万円で合計627万円になると思いますが、残りの額はほとんど手数料になりますか。

【育て上げネット 工藤理事長】

立川市さんは1円も取らないのですけれども、クレジットカードであったり手数料はどうしてもかかってしまいますので、その分はそのまま乗せています。

【読売新聞 宮尾記者】

ご説明の中で、闇バイトリスクが高い話が出てきているという話でしたが、具体的にどういいう話があったのか、説明いただけるものがありましたらお願いします。

【育て上げネット 工藤理事長】

10代の子で、生活が苦しいのでアルバイトを探してるっていうようなところから、うちの職員にですねスマホの画面見せて、どう思いますっていう中に、職員が一目見て、危ういと思った案件なので、多分即日現金とか明日にたくさんのお金がすぐもらえますよってこ

とが書いてあったと思うんですけども、正直これも、どう思うというところまで行ってしまふほど、やっぱり仕事を探す情報見るっていうことが難しい、もしくは周りに相談することができない。それこそ免許証送ってしまったらもうそこから先は結構厳しい状態になると思いますので、毎回あるわけじゃないんですけどもそういうケースもありました。あと、闇バイトじゃないのですが、結構これ大丈夫かなっていうようなアルバイト、女性が夜のアルバイトだったりというのは、率直のところ出てきますので、全員じゃないですけども、そういう闇バイトって話が出てきたときに、啓発で止めることと実際に行ってしまう間に、何とか防波堤を立川で作れたなと思っています。

【都政新報 山下記者】

ここに来る子どもや若者たちは、例えば八王子市からが多いとかどのあたりからきているのでしょうか。

【育て上げネット 工藤理事長】

二つありまして一つはですね、取らないようにしているんですよ。取ると逃げちゃうんです。つまり自分のことを聞かれたらもういやってなってしまう。役所がいい例だと思うんですけど、なるべく取らないようにはしています。

実際は立川近辺で、自転車・徒歩で来られる範囲、あと電車に乗ってくる子もいるんですが、交通費を出すことができない方もいますので、別で、交通費を補助する寄附を集めてます。そういう方には往復の交通費をこちらから出させていただいて、一度まず来てくださってということをやっています。ただ、あまり遠くから来るってことはないんですが、自転車で2時間かけて来ているっていう方が一人、一番遠い方がいます。危険だからやめてくれって言っているのですが。

【酒井市長】

皆さんもぜひ、子どもたちにとって頼れる大人の1人としてね、現場を見ていただいて、子どもたちに寄り添っていただければというふうに思います。

ありがとうございました。

それでは本日こちらから予定をしていた案件につきましては以上でございますが、本日お話を申し上げました項目以外に何かご質問等ございましたらお受けさせていただきたいと存じます。

【東京新聞 松島記者】

PFAS の関連について最近動きがあったということでちょっとお話を伺えればと思いますけれども、8月の横田基地内でのPFASの漏出事故に関して、ここ数か月国と連絡協議会の間で色々やり取りがあった中で、先日11月20日に協議会として、現地での直接説明する

ようにと国と米軍に対しても求めています。今までよりもトーンが強めかなと思うんですけども、こういった要請をするに至った経緯を教えてくださいてもよろしいですか。

【酒井市長】

今回のご案内の通り、消化液が入っていたタンクから大雨が降ってということなんですけれども、純粹に考えて、なぜ処理しなかったのかなというのが私の中では疑問として生じておりました。

そういった事故の報告を受ける中で、米軍側からの日本政府を通じての一定の報告はあったわけですが、やはりその流出が下水溝に流れたと言われておりますけれども、実際にそれがどうなのかということは、この間、横田基地周辺の市町でも要請をしてきた経緯がありますので、立ち入りも含めて東京都さんも旗振り役をやっていただいておりますので再度強く求めて、しっかりと我々の目で見て確認をしたいと。市民の皆様方にも少しでも安心材料を提供できるようにしていきたいという思いから、今回通常よりも少し強めの、強めというか普通なんですよね、要請をするという合意ができましたので都と横田基地周辺関連市町を合わせて要請をさせていただいた次第でございます。

【東京新聞 松島記者】

具体的に現地でどのようなことを確認したり説明を受けたいという考えですか。

【酒井市長】

それぞれ思いは違うのかもしれませんが、やはりそのタンクから流出、要はあふれ出たという話だと思いますので、もし私自身がその場に参加をさせていただくという機会があったとすれば、実際にそこから出た水がどういうふうに流れていくのか、流れ方等々は確認をしたいなということ。これは、それぞれ各市によって考え方は違うと思いますが、一般的には今回の流出事故の経過からすると、水の流れがどうなっているのかというところは確認したいという思いは共通しているのではないかと考えております。

【東京新聞 松島記者】

あえて調査ではなく説明するよという表現にしたという点については。

【酒井市長】

そこは近隣市と東京都との調整の結果として、そういった形でまとまったということです。

【東京新聞 松島記者】

基地内ということなんですけれども、日米地位協定では米側の許可なく、日本側の行政

機関が、米軍基地内に入れないと思うんですが、どういった形で今後、現地での説明に至るといいますか、スキームみたいなところがあるのでしょうか。

【酒井市長】

そこ案内の通り米軍側の許可がなければ、基地内には入れませんので、今回の要請も国を通じて米軍に求めていくということであろうと思っています。

その許可が出ない限り外から見ているしかないということですので、その部分については日本政府がしっかりと米軍側に要請をしていただきたいというのが今回の要請の趣旨であります。

【東京新聞 松島記者】

最後に今回の合意に至る経緯とといいますか、現地で直接説明というこのトーンが強いよりも当たり前だよねという話を先ほどされたと思うのですが、この当たりの要請が今までなかなかできなかったわけですよ。その合意に至るまでの難しさみたいなところというのは自治体間、都との交渉の中であつたのでしょうか。

【酒井市長】

それぞれ自治体の思いとか立場等々があろうかと思えますから、私からどこがどうのつていう話ではないわけですが、今回私の認識とか感じ方からすれば、合意が整ってこういった形で要請をすることができたということは、以前よりは一步を進んでるのかなという、一步と言うか半歩なのかもしれませんが進んだという印象です。

【東京新聞 松島記者】

わかりましたありがとうございます。

【共同通信社 杉山記者】

ポスター騒動で揺れた東京都知事選があつて、歴史的な総選挙があつて、それから驚きのトランプさん再選があつてですね、それから仰天の兵庫県知事選があつて、驚くような絶句するような選挙が続いているような感もするのですが、特に日本の選挙の場合、選挙のあり方がちょっと変質してきているのではないかというような、選挙運動のあり方が変化してきているのではないかというような思いもあるのですが、いち首長として、選挙で選ばれているものとして、何か所感というか思うところはございますでしょうか。

【酒井市長】

総選挙の結果というのは、大体過去数十年を見ても15年おきに政権が揺れるという、そういう状況が発生しているので、その時期に来たのかなという認識です。

ただ現実問題として、今の状況というものは、いい意味で不安定感があるのかなと。その一方で最初に申し上げたような地方の税財源という課題も我々首長は突きつけられているので、その部分については国に対しても、地方の状況というのは伝えていかななくてはならないと思っています。

また、都知事選挙のポスターは、あの中にはちょっと公序良俗に反するようなそういったポスターも散見されましたけれども、現行のその公職選挙法に則って供託金を払って供託をして立候補をされているので、その法制度の不十分なところはあるのかもしれませんが、それはそれで致し方ないのかなと。今回の兵庫の県知事選挙を見ると、皆様方のことをオールメディアみたいな位置づけで SNS がニューメディアということなんでしょうけれども、どちらがオールでどちらがニューというようなそういった問題ではなくて、やはりここにお集まりの市政記者クラブの皆さんはそれぞれの認識において、起こっている事象というものを正しく正確に有権者並びに市民の皆さんにお伝えをいただいているので、そこに何があったのかという部分については、それぞれの地域性というものもあるのかなと。

ただ今回の一連の、私も百条委員会都議会でメンバーとして経験をしたことがありますけれども、あえて言うならば、百条委員会で結論が出る前に不信任ということをするというのは、いささかあの県議会の方も乱暴であったのではないのかなということと、あとは私の中で一点だけ違和感が、これ斎藤知事の言動が、何が本当か嘘かということは私には論評ができない話なんですけれども、過去私も応援に来ていただいた明石の泉房穂市長も暴言を吐いたということで、1回辞任されて、でも市民の皆さんに選ばれて再選をされたという経緯があります。

あのときの問題というのは、その暴言を吐いた IC レコーダーなりの音声データが物証が出てきたんですね。本人もそれをお認めなって、でもそれを押して泉さん頑張ってくれという明石の市民の期待があったと。

今回のこの斎藤知事の、要はおねだりだとかいろんなメディアにパワハラだとかっていう証言はあるんだけど、それだけ何度も繰り返し繰り返し、そういったことをされているのであるならば、なんで音声の一つも出てこないのかなっていうところは、ちょっとどうなのかなっていう。それは、本当はあるのだけれども出てないだけかもしれないし、全くないのかもしれない。そこは私もマスコミの皆さんのそういった報道によってしか知るところはないわけなんですけれども、そこだけは違和感を感じていたということです。

いずれにしても、私も選挙で選ばれている身でございますので、やはり有権者の皆さんに様々な形で情報発信はしていきたいと思っております。また、選挙の形態っていうのは大きい選挙と小さい選挙によっても違いますし、また有権者のそれぞれの地域性ということもございまして、今色々な後日談で SNS の使い方云々という話もありましたけれども、感想から言うと、自分でできることは自分でやると。私も毎週末に YouTube 動画アップしていると申し上げましたが、自分で撮って、スマホで編集して自分で上げていますので、そうしておけ

ば誰か第三者が介在するという事もないのかなと思っていますし、またこういった場面も新聞記者さんにそれぞれ記事にさせていただくということもありますけれども、記者会見の様子は包み隠さずに市民の皆さんに公表していこうということで、私になってから前で動画を撮って、立川市の公式チャンネルにも掲載をさせていただいておりますので、政治家としては地道にコツコツと情報公開に努めていけばいいのかなと思っています。

【共同通信社 杉山記者】

トランプ氏ですが、次期政権では、米軍基地の駐留負担費の増額を求めてくるのではないかという見方が出ているのですけれども、米軍基地が存在している都道府県の首長として何か、思うところってありますでしょうか。

【酒井市長】

その部分については前回 8 年前ですか、トランプ大統領の時代にも同様な駐留経費の増額ということがあったのでその部分については、その負担を増額するのか否かということは、国が考えるべき問題であろうと思います。けれども首長というよりも、いち国民の立場から考えると、こちらからお願いをして駐留が始まったわけでもないのに、まだ戦後の日本という状況が継続をしているのかなという、そういった違和感は感じますね。

ただ現状で言えば、民主主義国家グループとして米国との同盟関係というのは一定の日本の安全を守っていくためには必要であろうと思っています。けれども、その負担のあり方というのは一方的に何か押し付けられるという類の話ではなくて、相互の政府が真摯に話をしてそれぞれ応分の負担というものをしていけばいいのではないかと、一方的に日本のことを守っていただいているというよりも、米国のプレゼンスの中で日本に駐留をしているということでしょうから、そこは米国も応分の負担というのはすべきじゃないかというふうに、私が仮に総理大臣であるならば言い返すだろうなと思っています。

ちょっと僭越でございますが。他に何かございますでしょうか。

よろしいですか。

では、今回の記者会見は以上とさせていただきたいと存じます。

また、来年には新年度の予算の発表も皆様方にできると思います。それまでに最初に話をした財源の問題が杞憂に過ぎたと、そういった結果になっていることを願いつつ、皆様方にはよいお年をお迎えいただければと思います。

また併せてなるべく一つでも多く、記事にさせていただけると嬉しく存じます。

以上でございます。

本日は大変長い時間になりましたけれども、お付き合いをいただきましてありがとうございます。